

# 世界旅打ち気分

●第39回・ベンディゴ

須田鷹雄



「本馬場入場」したグレイハウンド



ハーネスの競馬場で発走を待つ馬たち



ベンディゴ競馬場のレースシーン

写真的のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>  
#グリーンファーム会報#2021年11月号  
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

今回はオーストラリアの典型的な街といひよどり、ヴィクトリア州ベンディゴを紹介したい。

ベンディゴは州都メルボルンから北西に130キロほど車で約2時間のところにある。メルボルンからはバスや列車も出ていて、どちらも約2時間。列車は途中カイントンという、これも競馬場のある街を経由していく。

人口は約10万人だが、これでもヴィクトリア州では4番目に多いということになるらしい。金鉱山の跡地やヴィクトリア朝時代の建物が観光資源になっているらしく、市内には観光用の路面電車（鉱山跡まで行く）も入っている。なかなか霧囲気の良い街だ。

ベンディゴにはサラブレッドの競馬場だけでなくハーネスレース（繫駕競走）の競馬場もあり、後者はグレイハウンドレース（ドッグレスの「ースと隣接している。ハーネスとグレイハウンドが隣接しているというのは、ヴィクトリア州第2の都市ジーロングも同様だ。

サラブレッドの競馬場は、カテゴリでいうとカントリーの区分になり、オーストラリアの競馬がメトロ・プロヴィンシャル・カントリーの3

したり、平地でもタフな活躍をしていたようだ。01年にはジーロングカップ優勝で優先出走権を勝ち取り、メルボルンカップにも出走している（4着）。

障害入りしたのは03年で、SA

州のモフォートヴィルや、VICT州だとサンダウンで勝利をあげること

が多かったようだ。ベンディゴには障害レースが無いはずなので、入

障後はベンディゴでは走っていない。しかしバーの額装では「中山グランジ（ジャングル）連覇の名馬、カラジのふるさと」というようになつている。「」は「いや入障後はベンディゴ走つてないやん」と無粋なことは言わず、先方が中山グランジジャンプを誇りに思つてくれている点に感謝したい。

ハーネスの競馬場は市内から東に向かい、住宅地が終わつた先に

ある。建物などにその霧囲気はないが、かなり歴史のある競馬場らしい。ベンディゴペーパー・カップ（ペースは側対歩のこと）というのが最大のレースらしく、スタンド内のファンラウンジには歴代の優勝馬名が書かれている。

筆者が訪問した当日は大レースがあるというわけではなく、入場

手専用のピクニックもある）といつことは日本でも知られているが、ヴィクトリア州はプロヴァイニンガム（ベンディゴを「紹介したい」という区別を設定していないので、メトロ以外はすべてカントリーになってしまふのだ。ただカントリー場の中にも重要度の「アンスはある（実質的にはプロヴィンシャルだし、メトロと開催日がかちあついときにはメルボルンから一流騎手もやってくる）。

スタンドは大きくはないが、ファンエリックはやたらと広い。かつては本場入場者がかなりいたのだろう。当時使われていたレースブック売り場（いまでもカップデイくらいは使われるのかもしれない）やレンガ造りの噴水など、賑わっていた当時の霧囲気を伝えるものも多々。馬券を買うベースは通常のカントリーと同程度というか、ヒラ開催だとTABの窓口に加えてブックメーカーの台が10台程度。一方で装鞍所（ブレバードリーニング）のようなスペースはかなり広く、「ちゃんとした競馬場」の霧囲気がいる。これが別に「スタンド前にパ

者は中高年ばかり100人ほど。それでもスタンド内の売店では温かい食事の選択肢がちゃんとあります、常連客はそれなりに付いているようだ。

競馬場側もその歴史は誇示しているひとつ下、グラウンドレベルのスペースに展示物を置いている。古い馬車などが、地元で活躍した名馬のレース写真などだ。

常連客からすると100回見ている展示物なのでいまさら関心はない。されど、初見の我々が良く見れば、競馬場の努力も報われるというものだろう。

その後の戦績を見る（アーティードに遠征したりブリスベンに遠征

本のパドック党は鞍所隣接のパドックのほうが楽しめるかもしない。

オーストラリアでは名馬がデビューした競馬場がそのことをアピールするケースがよくあるが、ベンディゴが推しているのはカラジなのである。ただ、カラジが「」でデビューしていったのだ。

カラジはもともとイギリスの競馬で、3歳時に3勝をあげていた。アガ・カーン殿下の所有馬でマケル・スタウト厩舎所属という王室のトーナメントで優勝をあげたのがトーナメントである。

それがトレードされて豪州に渡り、最初に出走したのがベンディゴ。そのときは大敗したが移籍3戦目で豪州初勝利をあげたのもベニティゴだった。

その後の戦績を見るとアーティードに遠征したりブリスベンに遠征

うは入場者の高齢化を進めて人數を減らした感じで、正直寂しいといえば寂しい。オーストラリアは場外網が発達していく最近ではブックメーカーのネット販売も盛んなので、それでもやつていけるのだろう。堅実に存続していくほしいが、このような原稿を書く身としてはあまりネタにならないというのが正直なところである。

その後どうなったのか、ちゃんと脱力ムードだった関係者エリックも一瞬で空気が変わり、手の空いている人間が筆者も含め、全員ダッシュ。必死に馬の後を追つたが、結局馬は入場門から競馬場外に出てしまった。

その後どうなったのか、ちゃんと捕まつたのかは確認できなかつたのだが、帰りに見たら入場門近くに停めてあつた1台の車がボコボコにされてドアミラーがもげていた。そのあたりでひと暴れしたよ